有料老人ホームにおける余暇用共用施設の設計ガイドライン

有料老人ホームの余暇用共用施設に関する計画学的研究 その2

THE DESIGN GUIDELINE OF THE FACILITIES FOR LEISURE

A study on architectural planning of the facilities for leisure
of the privately managed housing for the elderly Part 2

石 飛 知 華*, 田 中 智 子**

Chika ISHITOBI and Tomoko TANAKA

The purpose of this study is creating the design guideline of the facilities in privately managed housing for the elderly. We drew the kinds of activity rooms which fit the activities carried out well. And then, we calculated the suitable floor area of each activity room by analysis of the number of persons who use the activity room. As a result, the facilities for leisure of privately managed housing for the elderly were summarized in five activity room that performance was different. They were conference room, multi-purpose hole, music room, game room and atelier.

Keywords : *the elderly, activity, facilities for leisure, privately managed housings for the elderly, design guideline*

高齢者, 余暇活動, 余暇用共用施設, 有料老人ホーム, 設計ガイドライン

1. はじめに

有料老人ホームには余暇活動用に多種の専用室が設けられている。筆者らは、施設の現状および余暇活動の現状について第1報で分析を行った¹⁾。その結果、有料老人ホームでは活発な余暇活動が行われているが、余暇用共用施設が使用されている時間数は少なく、室の設置目的と実際に行われている余暇活動が異なる場合も多いことがわかった。例えば、ほとんどの有料老人ホームでは、豪華な茶室や続き和室が計画されているが、床座が好まれないため、和室で行われると想定される活動が椅子座の部屋で行われたり、ほとんど使用されない事例も多い。余暇活動の種類や参加人数、活動時間などの余暇活動の実態を考慮し、実施率の高い余暇活動に適合した余暇用共用施設を計画することが望まれる。本報では、よく実施されている余暇活動を空間要件別に整理し、必要なアクティビティルームの種類を導き出したうえ、参加人数を分析することにより適切な床面積を算出し、代表的ホームを対象に余暇用共用施設の改善提案を行い、最終的に有料老人ホームにおける余暇用共用施設の設計ガイドラインを作成することを目的としている。

調査の概要は第1報と同じである。1997年7月から11月にかけて全国有料老人ホーム協会加盟の全153ホームを対象に3回の郵送調査を実施し、余暇活動の現状調査、余暇用共用施設に関する資料収集およびホーム側の意識調査を行った。また、1998年8月、9月に余暇用共用施設の外部開放をおこなっているホームを中心に、7ホームについて聞き取り調査および視察調査を実施した。余暇活動の現状では47ホーム、施設面積や余暇活動の週間プログラム等詳細な調査では19ホームについて分析を行っている。本報の研究方法は図1のフローチャートに示すとおりである。

図1 研究のフローチャート

2. 研究の方法

2-1 調査概要

本稿は、1998年度日本建築学会近畿支部研究報告集及び1998年度日本建築学会大会学術講演梗概集(九州)で発表したものを加筆・修正したものである。

* 京都造形芸術大学 副手・家修

** 奈良女子大学生生活環境学部 助手・学博

Assistant, Kyoto University of Art and Design, M. Home Eco.

Assistant, Division of Human Environment, Nara Women's Univ., Ph. D.

表1 余暇活動の空間要件別分類表

活動カテゴリー								合計	空間要件	机	椅子	専用 用具	専用 設備
G1	体操	運動	太極拳	ヨガ	卓球	ダンス	舞踊						
実施率 (%)	87.2	8.5	17.0	8.5	29.8	68.1	10.6	229.7	硬い床の広い空間				
平均活動時間 (h)	1.6	1.0	1.4	4.1	7.2	2.1	1.6	19.0					
G2	音楽会	音楽鑑賞	映画鑑賞	教養講座									
実施率	8.5	19.1	36.2	14.9				78.7	鑑賞用の椅子を並べられる		○		○
平均活動時間	0.8	1.4	1.7	0.5				4.4					
G3	文芸	語学	宗教	談話会	書道	華道	手芸・編み物	趣味工芸					
実施率	106.4	10.6	31.9	17.0	53.2	8.5	42.6	314.9	机・椅子を並べられる	○	○		
平均活動時間	0.9	1.7	1.2	1.0	1.1	0.9	2.0	11.2					
G4	コーラス・歌	賛美歌	カラオケ	邦楽・民謡	洋楽器								
実施率	91.5	6.4	53.2	76.6	14.9			242.6	防音性・音響効果 専用用具(固定)	○	○	○	○
平均活動時間	1.3	0.8	1.7	2.1	1.4			7.3					
G5	絵画	彫刻	陶芸										
実施率	66.0	8.5	34.0					108.5	専用用具を片付けずに並べて おくことができる	○	○	○	
平均活動時間	2.6	5.2	4.0					11.8					
G6	囲碁・将棋	麻雀	ゲーム										
実施率	85.1	55.3	19.1					159.5	専用用具(固定が望ましい)	○	○	○	
平均活動時間	7.5	7.8	3.1					18.4					
G7	茶道												
実施率	27.7							27.7	専用設備				○
平均活動時間	1.3							1.3					
G8	ビリヤード												
実施率	34.0							34.0	専用用具(固定)			○	
平均活動時間	10.4							10.4					

2-2 用語の定義

第1報で定義した用語について説明を加える。

余暇活動：あるスペースを必要とし、複数人数が集まって行うサークル形式の趣味活動

余暇用共用施設：余暇活動のための共用施設

アクティビティールーム：余暇用共用施設の個々の室

47 ホーム全体では、160 種余りの余暇活動が実施されていた。これらを内容から 47 カテゴリーに分類した。

実施率 (%)：あるカテゴリーの活動数／全ホーム数 (47) × 100

実施率が 200% である場合、このカテゴリーの余暇活動がホーム平均 2 種類実施されていることを示す。

室稼働率 (%)：1 週間の使用時間 (h) / (8h × 7 日) × 100

3. 余暇活動の空間要件別分類

47 カテゴリーの余暇活動のうち、屋外でおこなう活動（歩こう会、旅行等）、必要な空間要件の把握しにくい活動（写真、ボランティア等）、1 ホームのみで実施される活動（アロマセラピー、指圧・マッサージ等）15 カテゴリーの活動を省いた 32 カテゴリーの活動について、必要な空間要件別に 8 グループに分類した（表1）。各々の余暇活動について実施率と週平均活動時間を求め、さらに各グループ毎に、それぞれの合計と必要な什器、用具等をあげた。

グループ1（以下G1）は体操、ダンスなど身体を動かす活動で、一人当りの活動面積が大きく各自動き回るため、「硬い床のある広い空間」が必要である。G2は音楽や映画を鑑賞する活動で、基本的に椅子に腰掛けておこなうと考えられる。そこで「鑑賞用の椅子を並べられる」こととAV機器等の専用設備が必要となる。G3は語学や書道など机の上でできる学習、創作活動で、「机と椅子を並べ

られる」空間があればよい。G4はコーラス、楽器演奏など音を出す活動だが、ホーム側からも音の出る活動に対する配慮が求められており、「防音性・音響効果」が必要とされる。AV機器等の専用設備やピアノ等の楽器を置くこと、必要に応じて可動式の机と椅子を並べることも考慮したい。G5は絵画、彫刻、陶芸で専用の用具を必要とする。それらは可動であるが活動時間が長く、次の活動までそのまま置いておくことが多いことを考慮して、「専用用具を片付けずに並べておくことができる」のが望ましい。G4と同様に可動式の机と椅子は必要であろう。G6は囲碁、麻雀など専用の用具を用いて長時間行う活動である。これらの用具も「固定してある」ことが望ましく、また見物する人や歓談する人があることも想定して机と椅子を用意するとよい。G7は茶道で「専用設備」を必要とする。G8はビリヤードで専用台とそれを置くための広いスペースを要する。

4. アクティビティールームの種類の設定

4-1 余暇活動に対応するアクティビティールーム

G1からG8までの活動に対応するアクティビティールームをまとめたものが表2である。G1とG2は空間要件から室を兼用させることが可能であり、対応するアクティビティールームはホール・体育室・集会室とする。G3に対応するのは机と椅子を並べた会議室・工芸室である。G4は音の出る活動で、対応するのはAVルーム・音楽室である。G5は工房・アトリエが対応し、絵画、陶芸用の設備を設置する。G6には娯楽室・ゲーム室が対応する。G7はビリヤード台と見物人用の椅子が並べられるビリヤード室、G8は茶道のしつらえのある和室・茶室と、それぞれ専用室が対応する。

4-2 アクティビティールームの必要度

実施率よりアクティビティールームの必要度を判断すると、もっとも必要なのは会議室・工芸室（実施率 314.9%）である。次にホール・体育室・集会室（実施率 308.4%）、AVルーム・音楽室（実施率 242.6%）、娯楽室・ゲーム室（実施率 159.5%）、工房・アトリエ（実施率 108.5%）の順となっている。以上は実施率の合計 100% 以上の活動に対応するアクティビティールームであり、ホーム平均 1 つ以上行われる余暇活動に対応しているといえる。ビリヤード室（実施率 34.0%）と和室・茶室（実施率 27.7%）は活動の実施率からみ

表2 余暇活動に対応するアクティビティールームの種類

必要度	アクティビティールーム名	室の特性	対応する活動	実施率 (%)	活動時間 (h)
1	会議室・工芸室	机・椅子を並べられる室	G3	314.9	11.2
2	ホール・体育室・集会室	硬い床のある広い室 鑑賞用の椅子を並べられる室	G1・G2	308.4	23.4
3	AVルーム・音楽室	防音性・音響効果のある室	G4	242.6	7.3
4	娯楽室・ゲーム室	専用用具を固定できる室	G6	159.5	18.4
5	工房・アトリエ	専用用具を並べておける室	G5	108.5	11.8
6	ビリヤード室	専用設備のある室	G8	34.0	10.4
7	和室・茶室	専用設備のある室	G7	27.7	1.3

表3 ホームの規模別余暇活動の参加人数

活動グループ	活動内容	100戸未満			100戸以上200戸未満			200戸以上			全体平均(A)	標準偏差(s)	A-s	A+s
		平均(人)	最低(人)	最高(人)	平均(人)	最低(人)	最高(人)	平均(人)	最低(人)	最高(人)				
G1	体操、運動、太極拳、ヨガ、卓球、ダンス、舞踊	22.5	4	50	17.6	3	60	16.6	2	34	18.1	13.0	5.1	31.1
G2	音楽会、音楽鑑賞、映画鑑賞、教養講座	24.5	7	40	20.1	5	60	31.6	10	100	25.5	19.9	5.6	45.4
G3A	文芸、語学、宗教、談話会	9.2	2	15	14.9	5	40	14.6	3	32	14.0	7.7	6.3	21.7
G3B	書道、華道、手芸・編物、趣味工芸	15.3	2	50	16.2	3	80	11.1	2	30	13.9	13.5	0.4	27.4
G4A	コーラス・歌、賛美歌、	21.4	7	50	30.9	5	100	26.3	6	80	26.7	20.4	6.3	47.1
G4B	カラオケ、邦楽・民謡、洋楽器	6.3	4	8	14.3	2	60	11.1	2	30	12.0	10.6	1.4	22.6
G5	絵画、彫刻、陶芸	9.0	5	14	12.9	1	30	12.9	2	30	12.7	7.9	4.8	20.6
G6	囲碁・将棋、麻雀、ゲーム	8.3	4	16	11.3	2	50	16.1	4	57	12.5	10.1	2.4	22.6

でも設置する必要度は低いといえる。それぞれ専用室を設置しないとすると、ビリヤードについては、玄関ロビーや食堂横等のオープンスペースにビリヤード台を置くことが考えられ、茶道については、会議室等に可動畳を置くもしくは机と椅子を使って行うことが考えられる。

5. アクティビティルームの床面積の設定

5-1 参加人数の分析

表3は各活動グループの参加人数と標準偏差をホームの規模別に求めたものである。G3とG4についてそれぞれA、Bとあるのは、

一人あたりの活動面積の違いから2つに分類したためである(図3参照)。

全体でみると平均参加人数のもっとも多いのはG4Aのコーラス・歌等で、26.7人となっているが、標準偏差は20.4でばらつきをもっとも大きいといえる。つづいてG2の鑑賞系が25.5人、G1の運動系が18.1人とやや多く、他の活動は12~13人となっている。ホームの規模別にみると、G6以外は参加人数がホームの規模に比例する傾向はみられない。

全体的に標準偏差が非常に大きく参加人数にばらつきがあるが、参加人数別の余暇活動数(図2)と参加人数の集中度をみると、G

図2 参加人数と活動数

図3 一人あたりの活動面積

3 BとG 6で特定の人数に強く集中する傾向がみられる。G 3 Bではホームの規模にかかわらず5人から10人に50.0%集中しており、多人数でおこなう可能性は低い活動といえる。G 6は6人から16人に68.1%集中しているが、ホームの規模が大きくなるにつれて参加人数が増える傾向がみられる。2人から4人の少人数のグループが単位となって行う活動であるため、参加希望者が多い場合ゲーム台を増やして対応しやすく、ホームの規模に比例していると考えられる。その他の活動では、各々ピークは持つがそれほど強い集中はみられない。G 2は20人から30人に48.6%、G 3 Aは10人から20人に58.3%、G 4 Bは4人から15人に66.7%、G 5は6人から15人に49.0%であり、それぞれ活動しやすい集団の大きさがあると推測される。G 1、G 4 Aでは、集中する人数の幅は広く、特定の傾向は把握し難い。

5-2 床面積の設定

図3に各活動カテゴリーにおける一人あたりの活動面積を示す。

図4 参加人数をもとに設定した床面積

図5 参加人数と床面積の関係

実施率が高かつもっとも広い面積を必要とする活動を採用し、資料として建築設計資料集成に掲載されている動作空間を用いた²⁾。これをもとに一人あたりの活動面積×人数に通路等の必要面積を加えて床面積を算出した。人数は、表3の参加人数の平均値－標準偏差および平均値＋標準偏差を採用し、おのおのに対応する面積をむすんだものが図4である。

もっとも広い面積を必要とするのはG 5だが、G 1は参加人数の幅が大きく多人数で活動する場合は広い面積が必要となる。G 2とG 4 Aは参加人数の幅は大きい、一人あたりの活動面積が小さいので人数による面積差は他に比べて少ないといえる。

次に、データをもとに設定したこれらの床面積値を実際の活動状

表4 ホームの概要と余暇活動の実施状況

ホーム名	設立年	入居金支払方式	入居金/m ² (万円)	経営主体	余暇活動数	100人当りの活動数	延べ活動時間(h)	延べ参加率(%)	アクティビティルーム数
H.C	1973	利用権B	82.3	株式会社	10	10.9	21	59	6
H.E	1973	利用権A	86.4	社団法人	36	9.9	122	150	7
C.E	1978	利用権C	75.1	財団法人	9	6.8	5	288	6
K.K	1978	分譲	81.3	株式会社	4	4.3	3	46	1
C.T	1979	利用権C	84.6	株式会社	18	9.5	52	76	6
T.E	1979	利用権A	95.7	社団法人	15	5.8	25	70	6
I.U	1979	利用権A	106.1	財団法人	23	7.9	54	67	7
S.K	1980	利用権C	61.1	株式会社	16	10.3	60	134	2
S.L	1981	利用権C	71.1	宗教法人	11	9.6	11	263	6
Y.Y	1983	利用権A	117.2	財団法人	22	8.4	4	114	7
A.H	1984	利用権A	43.6	株式会社	16	7.8	129	181	5
Z.K	1984	分譲	60.6	株式会社	11	5.2	65	53	6
S.V	1984	利用権C	178.9	株式会社	9	21.4	4	314	1
I.Y	1985	利用権A	62.6	株式会社	4	5.7	12	71	3
K.V	1985	利用権A	79.1	株式会社	4	4.3	5	144	4
A.Y	1985	利用権A	101.3	社団法人	11	4.9	30	43	1
O.Y	1985	利用権A	139.8	財団法人	15	9.0	45	95	4
R.H	1986	利用権C	50.1	個人	15	8.9	31	89	8
H.I	1986	利用権B	53.4	株式会社	6	5.0	19	45	7
M.P	1986	利用権A	63.6	株式会社	16	9.4	30	227	2
L.K	1986	利用権A	82.0	財団法人	30	10.6	55	118	12
N.S	1986	利用権A	83.8	株式会社	12	5.7	55	43	3
A.E	1986	利用権A	92.9	社団法人	25	7.4	149	130	6
J.S	1987	利用権A	50.9	株式会社	3	5.2	4	78	3
A.B	1987	利用権A	62.1	株式会社	17	5.8	*	*	5
R.Z	1987	利用権C	78.8	株式会社	7	17.1	8	278	3
B.M	1988	利用権C	33.2	株式会社	8	8.5	4	112	5
B.C	1988	利用権A	89.4	株式会社	14	28.6	15	361	5
S.M	1988	利用権C	141.8	株式会社	8	9.3	3	115	1
S.E	1989	利用権A	48.5	株式会社	7	10.3	21	138	4
S.O	1989	利用権B	118.2	株式会社	16	12.5	21	136	5
V.O	1990	利用権A	40.3	株式会社	14	7.8	66	87	7
H.T	1990	利用権B	64.6	株式会社	2	2.6	6	49	3
P.Y	1990	利用権C	100.0	株式会社	21	19.4	41	371	10
A.M	1991	利用権A	99.5	株式会社	21	8.8	23	166	9
N.L	1992	分譲	41.0	株式会社	15	21.4	45	536	9
N.E	1992	利用権A	97.0	財団法人	41	7.8	206	127	9
K.S	1992	利用権B	106.8	株式会社	8	8.2	16	88	4
K.M	1992	利用権A	106.9	株式会社	7	9.0	11	108	4
S.R	1993	利用権B	76.0	株式会社	9	10.2	15	155	4
S.T	1993	利用権A	87.7	株式会社	4	4.8	19	113	5
F.H	1993	利用権B	93.4	社団法人	7	9.3	5	77	4
F.A	1993	利用権A	106.2	株式会社	4	8.0	4	400	6
N.Y	1994	利用権A	87.9	株式会社	18	13.5	94	310	12
S.S	1996	利用権A	72.6	株式会社	10	2.9	66	37	10
S.H	1996	分譲	107.3	株式会社	7	3.9	9	24	3
M.E	1997	利用権A	96.2	財団法人	16	12.8	32	470	14

注)入居金=(最小居室に1人入居の場合、入居時に支払う費用全額)/居室面積

延べ参加人数=Σ各活動の活動人数

延べ活動時間=Σ各活動の活動時間

延べ参加率=延べ参加人数/入居者数×100

況と比較する。

図5は活動グループごとに実際の活動の参加人数と床面積の関係を示したものに、図4の床面積値を重ねたものである。参加人数と床面積についてやや相関がみられるのはG5のみで、あとはほとんど相関がないといえる。G1、G4Aはばらつきが大きく、広すぎる室で活動している事例が少なくない。G2は多少ばらつきがあるが、適正面積で活動している事例もある。G3BとG5は、ばら

図6 終身利用権方式において入居の際に支払う諸経費

表5 ホームの概要と余暇活動の相関関係

	設立年	入居金/m ² (万円)	経営主体による平均値の差()は平均値
余暇活動数	-0.18	0.12	株式会社(10.5)<財団法人(22.3) *** 株式会社(10.5)<社団法人(18.8) *
100人当りの活動数	0.07	0.22	
述べ活動時間	-0.04	-0.11	株式会社(29.4)<社団法人(66.1) *
述べ参加率	0.24	0.07	
アクティビティルーム数	0.25	-0.14	株式会社(4.9)<財団法人(8.4) **

注) *:有意確率5%未満、**:有意確率1%未満、***:有意確率0.1%未満

つきは小さいが狭すぎる状態で活動しているものも多い。G4BとG6は参加人数が多くても狭い室で活動している事例がいくつかある。

6. 既存の余暇用共用施設の改善

6-1 ホームの諸条件と余暇活動の関係

有料老人ホームは、経営主体や入居条件が個々のホームによって異なっており、それぞれが独自の方針で計画・運営している。表4に47ホームの概要と余暇活動の状況について示す。

設立年はもっとも古いホームが1973年で、1997年開設のホームもある。入居金の支払い方式は、終身利用権方式、分譲方式、年金方式、賃貸方式の4つに分類される³⁾が、終身利用権方式は介護費用等が含まれるか否かによってさらに4つのタイプに分かれる(図6参照)。最小面積の居室に1人で入居する場合の入居金を、1m²当りの金額に換算し比較した。経営主体は47ホームでは株式会社、財団法人、社会福祉法人、宗教法人、個人の5つに分類される。

設立年、1m²当りの入居金、経営主体による余暇活動の状況の差異について考察する(表5)。ただし、経営主体については宗教法人と個人はそれぞれ1ホームのみであるため対象から除いた。

設立年との関係をみると、延べ参加率とアクティビティルーム数は弱い相関がみられるが、あとはほとんど相関がない。新しいホームほど参加率がやや高く、アクティビティルーム数がやや多い。1m²当りの入居金は、100人当の活動数に弱い相関がみられ、高額なホームでは活動数がやや多い。経営主体による平均値の比較は、余暇活動数と述べ活動時間、アクティビティルーム数について有意な差がみられ、株式会社が経営するホームは、他に比べると比較的余暇活動はひかえめであるといえる。

6-2 3ホームの余暇用共用施設の改善事例

郵送調査、アンケート調査、聞き取り調査のすべてを行ったホームのうち、比較的余暇活動が活発で豊富な余暇用共用施設を備えている3ホームを抽出した。

3ホームそれぞれについて、屋内で行われる余暇活動を4節で設定した5つのアクティビティルームに整理し直した改善案を表6に示す。

床面積は、もっとも面積を必要とする活動の参加人数をもとに図4より算出した。ホーム居住者の全体集会等でアクティビティルームを使用することも考えられるが、ヒアリングによると必ずしも全員が出席するとは限らないこと、食堂で対応可能なことから、アクティビティルームで行う必要はないと考えた。

N.Yホームは、あまり使われていない和室を広くとりすぎていることが問題であり、和室を削除することにより他の用途に有効利

表6 アクティビティールームの改善事例

改善前

アクティビティールーム	面積 (㎡)	活動名	活動グループ	人数 (人)	時間 (h)	室稼働率 (%)
1 ライフケアホール	216	ダンス 合唱 男声コーラス 卓球	G1 G4A G4A G1	18 80 80 4	2.5 0.5 0.5 3.0	11.6
2 パーティールーム	50	俳句	G3A	20	0.8	1.3
3 AVルーム	56	カラオケ 映画鑑賞 女声アンサンブル	G4B G2 G4A	20 20 20	2.5 0.5 0.5	6.3
4 サークルルーム	24	詩吟	G3A	12	0.5	0.9
5 図書室	39	謡曲 手工芸	G4B G3B	24 16	1.5 1.0	4.5
6 陶芸室	58	陶芸 絵画 絵手紙	G5 G5 G3B	18 18 18	1.0 1.8 0.3	5.5
7 麻雀室	36	麻雀	G6	20	21.0	37.5
8 囲碁室	30	囲碁	G6	12	4.0	7.1
9 ビリヤードコーナー	103	ビリヤード	G8	4	42.0	75.0
10 多目的和室	101					0.0
11 和室	40					0.0
12 トレーニングルーム	61					0.0
総床面積	814					平均室稼働率 12.5

改善前

アクティビティールーム	面積 (㎡)	活動名	活動グループ	人数 (人)	時間 (h)	室稼働率 (%)
1 アクティブホール	317	社交ダンス 太極拳 絵画	G1 G1 G5	50 30 30	1.0 1.5 1.5	7.1
2 多目的室	55	短歌 書道	G3A G3B	20 15	0.8 1.0	3.2
3 工芸室	36	陶芸 手描き染 アンティークドール	G5 G3B G3B	10 10 6	6.0 1.0 1.3	14.8
4 和室	74	謡曲	G4B	10	2.0	3.6
5 音楽室	50	コーラス ビデオ鑑賞	G1 G2	15 20	0.8 0.5	2.3
6 第1ゲーム室	30	麻雀 コントラクトブリッジ	G6 G6	12 6	1.5 1.5	5.4
7 第2ゲーム室	30	囲碁	G6	16	1.5	2.7
8 レクリエーションルーム	51					0.0
9 フィットネスルーム	48					0.0
総床面積	691					平均室稼働率 4.3

改善前

アクティビティールーム	面積 (㎡)	活動名	活動グループ	人数 (人)	時間 (h)	室稼働率 (%)
1 多目的ホール	119	コーラス 養生気功 フォークダンス 健康体操 お楽しみ会 社交ダンス	G4A G1 G1 G1 G3A G1	27 9 8 3 15 2	1.3 0.8 0.8 0.3 0.3 *	6.3
2 3階カルチャー教室	56	書道 手芸 歴史を読む会 聖書 講演会	G3B G3B G3A G3A G2	8 6 16 16 50	2.0 0.5 0.4 0.4 *	5.9
3 応接会議室	24	編み物 俳句 短歌	G3B G3A G3A	5 7 11	1.0 2.0 0.8	6.8
4 アトリエA	30	陶芸 絵画 和紙ちぎり絵	G5 G5 G5	7 9 10	1.5 1.0 0.5	5.4
5 アトリエB	26	麻雀 囲碁 オセロ 囲碁教室	G6 G6 G6 G6	4 8 8 7	3.5 3 5 1.5	23.2
6 4階和室・茶室	36	謡曲 茶道	G4B G7	9 10	6.0 2.5	15.2
7 ミュージックスタジオ	31	音楽鑑賞	G2	21	8.0	14.3
8 レクリエーションホール	26					0.0
9 アスレチックルーム	68					0.0
10 図書室	30					0.0
総床面積	446					平均室稼働率 7.7

改善後

アクティビティールーム	面積 (㎡)	活動名	活動グループ	人数 (人)	時間 (h)	室稼働率 (%)
1 会議室・工芸室	114	俳句 詩吟 手工芸 絵手紙	G3A G3A G3B G3B	20 12 16 18	0.8 0.5 1.0 0.3	4.6
2 ホール・体育室・集会室	117	ダンス 卓球 映画鑑賞 合唱 男声コーラス	G1 G1 G2 G4A G4A	18 4 20 80 80	2.5 3.0 0.5 0.5 0.5	12.5
3 AVルーム・音楽室	114	女声アンサンブル カラオケ 謡曲	G4A G4B G4B	20 20 24	0.5 2.5 1.5	8.0
4 娯楽室・ゲーム室	57	麻雀 囲碁	G6 G6	20 12	21.0 4.0	44.6
5 工房・アトリエ	128	陶芸 絵画 ビリヤード	G5 G5 G8	18 18 4	1.0 1.8 42.0	5.0
総床面積	530					平均室稼働率 14.9

改善後

アクティビティールーム	面積 (㎡)	活動名	活動グループ	人数 (人)	時間 (h)	室稼働率 (%)
1 会議室・工芸室	100	短歌 書道 手描き染 アンティークドール	G3A G3B G3B G3B	20 15 10 6	0.8 1.0 1.0 1.3	7.3
2 ホール・体育室・集会室	299	社交ダンス 太極拳	G1 G1	50 30	1.0 1.5	4.5
3 AVルーム・音楽室	60	謡曲 コーラス ビデオ鑑賞	G4B G1 G2	10 15 20	2.0 0.8 0.5	5.9
4 娯楽室・ゲーム室	49	麻雀 コントラクトブリッジ 囲碁	G6 G6 G6	12 6 16	1.5 1.5 1.5	8.0
5 工房・アトリエ	194	陶芸 絵画	G5 G5	10 30	6.0 1.5	13.4
総床面積	702					平均室稼働率 7.8

4.3

改善後

アクティビティールーム	面積 (㎡)	活動名	活動グループ	人数 (人)	時間 (h)	室稼働率 (%)
1 会議室・工芸室	82	俳句 短歌 歴史を読む会 聖書 お楽しみ会 書道 手芸 編み物 茶道	G3A G3A G3A G3A G3A G3B G3B G3B G7	7 11 16 16 15 8 6 5 10	2.0 0.8 0.4 0.4 0.3 2.0 0.5 1.0 2.5	17.7
2 ホール・体育室・集会室	131	養生気功 フォークダンス 健康体操 社交ダンス 講演会	G1 G1 G1 G1 G2	9 8 3 2 50	0.8 0.8 0.3 *	3.4
3 AVルーム・音楽室	61	コーラス 謡曲 音楽鑑賞	G4A G4B G2	27 9 21	1.3 6.0 8.0	27.3
4 娯楽室・ゲーム室	33	麻雀 囲碁 オセロ 囲碁教室	G6 G6 G6 G6	4 8 8 7	3.5 3 5 1.5	23.2
5 工房・アトリエ	86	陶芸 絵画 和紙ちぎり絵	G5 G5 G5	7 9 10	1.5 1.0 0.5	5.4
総床面積	393					平均室稼働率 15.4

用できる。和室が必要な場合は、会議室・工芸室に可動畳を並べて対応する。A.Mホーム、L.Kホームともにビリヤード室が必要ではないことや、現在の図書室が明るく開放的でよく利用されることから、オープンスペースにビリヤード台と図書を並べて歓談のスペースとする。

A.Mホームは、絵画を30人で行っており、現在はホールで対応している。改善案では工房・アトリエで絵画を行うことにしたが、余暇用共用施設の総床面積が既存の施設より増加してしまうので、やはりホールで対応し、その分面積が不足していると意見のあったフィットネスルームを広げるほうが有効かもしれない。ビリヤード台と図書が並べてあるオープンスペースがすでにサロンとして設けられている。

L.Kは、開設後アクティビティルームをいくつか改善している。ビリヤード室を談話室に改造し、調理用のアトリエを、囲碁を楽しむための部屋に変更している。改善案では、5つのアクティビティルームにまとめた。茶室で茶道が行われていたが、会議室・工芸室に可動畳を並べるか、椅子座で行うこととする。他の2ホームと同様に、オープンスペースにビリヤード台と図書を設置する。

以上の改善の結果、2ホームでは余暇用共用施設の総床面積が減少し、3ホーム全てにおいてアクティビティルームの平均室稼働率が増加した。

7. 余暇用共用施設の設計ガイドラインの提案

前節の改善事例をふまえたうえで、有料老人ホームの余暇用共用施設の設計ガイドラインを表7のとおり提案する。なお、床面積は5節で分析を行った参加人数に集中のみられる活動においては、集中している人数を使用して算出した値を、参考値として提示している。

もっとも必要度の高い会議室・工芸室は、活動にあわせて設置できるように可動式の会議用机を用意する。場合によっては可動畳をならべる、可動パーティションでスペースを分割するなどして使用する。ホール・体育室・集会室は、AV機器を備え、床材は弾力のあるものを使用し、鑑賞用の椅子、可動ステージ、卓球台などを並べることができる、またそれらの備品を収納するスペースがある等転用性のあるしつらえとする。AVルーム・音楽室は、AV機器、カラオケセット、ピアノなどを設置し、防音設計とする。必要に応じて出し入れできる机と椅子を用意する。歌を歌ったり、楽器を演奏する以外に少人数での音楽鑑賞などにも対応できるとよい。娯楽室・ゲーム室は、囲碁・将棋・麻雀の設備を設置し、安楽椅子・テーブルを用意する。工房・アトリエは、イーゼルなどの絵画用備品を用意し、可能ならば簡易な陶芸設備を設置する。

また、個室化したアクティビティルーム以外に、ロビーや廊下の一角に、ビリヤード台や図書、安楽椅子などを並べたオープンスペースを設け、入居者とスタッフの交流の場や入居者同士の歓談の場とする。

8. まとめ

有料老人ホームでは、入居者による余暇活動が活発に行われ、余暇活動のための共用施設も多種の専用室が設置されているが、利用実態に適合した計画がなされているとはいえない。本研究では余暇

表7 アクティビティルームの提案

アクティビティ ルーム	対応する 余暇活動	必要な設備、什器等	使用例	人数(人) [参考値]	床面積(m ²) [参考値]
会議室 工芸室	G3A 文芸 語学 宗教 談話会	可動会議机・椅子 可動パーティション 可動畳 黒板または白板 流し設備	G3Aのときは会議机を並べる。G3Bのときは会議机を2つ並べる、または畳を並べる。畳の必要度が高い場合はあらかじめ畳スペースを一角に設ける。必要ならば可動パーティションでスペースを区切って利用する。	10 20	56 99
	G3B 書道 手芸・編物 趣味工芸			5 10	46 72
ホール 体育室 集会室	G1 体操 運動 太極拳 ヨガ 卓球 ダンス 舞踊	弾力のある床 鑑賞用の椅子 可動ステージ AV機器 ピアノ スクリーン 黒板または白板 卓球台	G2のときは鑑賞用の椅子を並べるが、G1のときは収納スペースにしまっておく。椅子の出し入れに人手がかかりすぎる場合は自動化を図る。必要ならば可動パーティションでスペースを区切って利用する。	-	-
	G2 音楽会 音楽鑑賞 映画鑑賞 教養講座	可動パーティション		20 30	59 83
AVルーム 音楽室	G4A コーラス・歌 賛美歌	AV機器 カラオケセット ピアノ	防音性、音響効果を配慮する。G4Bのときは必要ならば机を並べるが、G4Aのときは収納にしまっておく。	-	-
	G4B カラオケ 邦楽・民謡 洋楽器	可動机・椅子 黒板または白板		4 15	39 79
娯楽室 ゲーム室	G6 囲碁・将棋 麻雀 ゲーム	囲碁・将棋・麻雀台 安楽椅子・テーブル	囲碁・将棋・麻雀台を並べてある。休息・談話のスペースとなるよう安楽椅子・テーブルを設置する。	6 16	29 49
工房 アトリエ	G5 絵画 彫刻 陶芸	可動作業台・椅子 イーゼル等の専用用具 黒板または白板 流し設備	活動によって必要ならば作業台を並べる。	6 15	62 111

オープンスペース ビリヤード台・図書・安楽椅子・テーブルなどを並べ、歓談スペースとする。

注)参加人数に集中のみられる活動については、集中する幅の小さいものと大きいものについて床面積を算出し、参考値として提示した。

活動の現状分析、既存施設の改善事例から、実際の活動に適合した余暇用共用施設のガイドラインを提案した。

その結果、①余暇用共用施設は、性能の異なる5つのアクティビティルームに集約することができること、②参加人数はホーム規模による影響がほとんどみられず、特定の数に強く集中する活動、やや集中する活動、あまり集中しない活動に分類でき、特定の数に集中する活動では、活動しやすい集団の大きさによって規定されていること、③余暇活動の状況は、株式会社が経営するホームは他の経営主体に比べてやや余暇活動が不活発であるが、設立年や入居金による差異は小さいことがわかった。

今後の課題として、入居者の属性と余暇活動意識、活動状況との関係性、またホームの特性との関係性についてさらに明らかにする必要があるであろう。

謝辞

本研究をすすめるにあたり、調査にご協力下さいました全国の有料老人ホームの方々に深く感謝いたします。また、故湯川利和先生には多くのご教示とご指導をいただきました。あらためて感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 田中智子、石飛知華：有料老人ホームにおける余暇活動と余暇用共用施設の現状—有料老人ホームの余暇用共用施設に関する計画学的研究 その1、日本建築学会計画系論文集 第537号、pp149-156、2000年11月
- 2) 日本建築学会編：建築設計資料集3集 単位空間1、丸善株式会社、1980年
- 3) 崔裕：日本における有料老人ホームの住環境特性、奈良女子大学学位請求論文、1998年

(2001年5月10日原稿受理、2002年1月17日採用決定)